

星野恆 （^註河國史學者、文學博士。天保十年七月七日越後國蒲原郡白根生れ、大正六年九月十日歿（一八三九—一九一七）。諱世恆、字徳夫、幼名七三三藏、通稱恆太郎、恆。號豐城。安政六年江戸で鹽谷守右衛門の學僕となる。慶應二年歸郷、翌年水原學校教官。明治八年上京して大政官修史局に入り、「大日本編年史」の編纂に従事。二十一年帝國大學文科大學教授、三十九年學士院會員、四十二年史學會會長。

著書に『稿本國史眼』全七冊（重野安澤・久米邦武全纂、上帙四冊・明治二十三年十月十五日、下帙三冊・十一月二十一日帝國大學藏版、大成館）、『竹内式部君事蹟考』（内題「竹内式部君事蹟考」明治二十二年七月二十一日富山房）、『辨妄史』（重野安澤・芳川太郎吉・富本巖合著、明治二十五年五月五日廣文堂書店）、『史學叢說』（第一集・明治四十一年九月十日富山房）、『豐城存稿』（大正二十二年十一月二十日星野教授在職二十五周年祝賀會）、『勤皇家竹内式部先生小傳』（昭和十二年九月二十六日新潟市役所）。

